

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	田沢湖高原雪まつり開催費補助金					
担 当 課 係 名	観 光 課		観 光 係		作成者	戸 澤 浩
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	歴史と自然が織り成す交流拠点のまち				総合計画のページ
	基本計画	観光誘客体制の整備と観光資源の掘り起こし				
	主要施策	テンミリオン計画の推進・観光資源の掘り起こし				29
予 算 費 目	一般会計	会計	7 款 商工費	1 項 商工費	3 目	観 光 費
事 業 期 間	平成 年度 ~ 平成 年度			新規 / 継続の区分		継 続
性 質 区 分	☐ 市民サービス ☐ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☒ 補助金 ☐ 内部管理					
根 拠 法 令 等	仙北市補助金等交付規則					
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務					
運 営 方 法	☐ 直 営 ☐ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☒ 補 助					

【事務事業の実施内容】

事業の対象 （誰のため・何を）	観光客や地域住民のために仙北市の冬を楽しむお祭りとして開催している。
事業の目的・意図 （どういう状態にしたいのか）	冬季観光の推進と地域の振興、活性化を図るため、イベントを通じてのイメージアップとスキー客、観光客の誘致と増客を目的とする。
事業の内容 （どのような業務、活動を行うのか）	雪、温泉、スキー等の冬季観光資源を活用しながら冬季観光の推進と地域の振興、活性化を図る目的で実施。イベント内容：（雪像制作展示・市内小正月行事の実施・沿線、会場雪中灯籠の作成・スキーカーニバル等）

【事務事業の推移】

	項 目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	
効果	活動指標	観光客数	目標	人	27,000	27,000	27,000	
			実績	人	27,000	20,000	23,100	
			達成度	%	100.0%	74.1%	85.6%	
	成果指標	観光客数対前年比	目標	%	100.0	100.0	100.0	
			実績	%	116.9	74.1	115.5	
			達成度	%	116.9%	74.1%	115.5%	
投下コスト	項 目		総事業費		18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)				1,500	1,500	1,500	
	人 件 費 (B)		—		785	807	476	
	財源内訳	職 員 数	—		0.10	0.10	0.06	
		職 員 平 均 人 件 費	—		7,853	8,071	7,925	
		(A) + (B) 投下コスト				2,285	2,307	1,976
	財源内訳	国 庫 支 出 金						
		県 支 出 金						
		地 方 債						
		そ の 他						
		一 般 財 源			2,285	2,307	1,976	
	単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—		85	115	86
		市民1人当たりのコスト(円)		—		72	73	64

【事務事業の今までの成果】

雪資源、温泉、スキー等の冬季観光資源と体験型のイベントを活用した観光性豊かなイベントとして定着している。冬季観光の推進と地域の振興、活性化を図るため、イベントを通じての雪国のイメージアップやスキー客、観光客の誘致、増客を狙いに実施してきている。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	秋田花まる観光振興プランやあきた21総合計画においても、小正月行事をはじめとした冬季観光の推進が取り上げられている。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	観光地としての受け入れ態勢として、どこに行っても雪像があるとか、駅から会場までの沿線にミニかまくらや雪中灯籠などがあればいい。地域の盛り上げに期待。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
B 2	A 現状のまま継続（実施）	観光関係組織の関わりが薄い。冬季観光の推進という目的はあるものの、その地域でのイベントの必要性を考えてもらいたい。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

国、県も観光に関し様々な施策を打ち出している。中でも冬季観光の推進については、北国のマイナスイメージを払拭させるべく、雪資源を活用したイベント、行事等によるイメージアップが図られてきた。観光に関わる全ての人がこのイベントの必要性を考え、利用するイベントではなく、地域で盛り上げ、地域住民が訪れる観光客が楽しめる魅力あるイベントにしなければならない。市全体とはいかないまでも、意見にあるような沿線や家々の前にミニかまくらや雪中灯籠、雪像は魅力あるイベントとして参考になると思う。

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
C 2	たざわ湖まつりと同様、参加者不足という課題の克服が求められます。地域住民や関連事業者の参加確保等、実行体制の見直しが必要と考えます。

一次評価診断図

